国民生活・経済に関する調査会

委員一覧（25名）

会　長	矢野　哲朗（自民）	亀井　亜紀子（民主）	佐藤　信秋（自民）
理　事	佐藤　公治（民主）	川崎　稔（民主）	長谷川　大紋（自民）
理　事	広田　一（民主）	津田　弥太郎（民主）	橋本　聖子（自民）
理　事	藤本　祐司（民主）	友近　聡朗（民主）	森　まさこ（自民）
理　事	愛知　治郎（自民）	中谷　智司（民主）	山田　俊男（自民）
理　事	加納　時男（自民）	姫井　由美子（民主）	澤　雄二（公明）
理　事	松　あきら（公明）	藤原　良信（民主）	大門　実紀史（共産）
	犬塚　直史（民主）	増子　輝彦（民主）	
	加賀谷　健（民主）	石井　準一（自民）	（20.2.13 現在）

（１）活動概観

〔調査の経過〕

本調査会は、国民生活･経済に関し、長期的かつ総合的な調査を行うため、平成19年10月５日（第168回国会）に設置され、同年12月に調査項目を「幸福度の高い社会の構築」と決定した。

今国会においては、「幸福度の高い社会の構築」についての調査を進めるに当たり、まず、国民生活の現状を全般的に把握するため、国民の生活環境と意識など６テーマについて、参考人からの意見聴取･質疑、委員間の意見交換を行った。

平成20年２月13日には、「国民の生活環境と意識」について、JT生命誌研究館館長中村桂子君及び東京学芸大学教育学部教授山田昌弘君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った後、委員間の意見交換を行った。

２月20日には、「国民生活と行財政の現状」について、木下敏之行政経営研究所代表木下敏之君及び東京大学大学院経済学研究科教授神野直彦君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った後、委員間の意見交換を行った。

２月27日には、「都市と地方のくらしの現状と課題」について、明治大学農学部教授小田切徳美君及び地域生活圏研究所代表中谷健太郎君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

４月９日には、「若者のくらしと教育」について、童話作家･ミュージカル脚本家山崎陽子君及びネッツトヨタ南国株式会社代表取締役会長横田英毅君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

４月16日には、「福祉とくらし」について、日本女子大学人間社会学部教授岩田正美君及び国立社会保障･人口問題研究所所長京極髙宣君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

４月23日には、「ゆとりとくらし」について、早稲田大学社会科学総合学術院教授岡澤憲芙君及び文化人類学者･明治学院大学国際学部教授･ナマケモノ倶楽部世話人辻信一君の両参考人から意見を聴取し、質疑を行った。

５月14日には、１年目の調査及び今後の調査会の活動等について委員間の意見交換を行った。

また、２月19日に、国連世界食糧計画日本事務所及び国際連合大学高等研究所の視察

を行った。

以上のような調査の概要を調査報告書（中間報告)として取りまとめ、6月4日、議長に提出した。

〔調査の概要〕

2月13日の調査会では、参考人から、命を基本に置く社会の構築、地球環境問題と人心の荒廃、戦後社会の幸福の物語とそのゆらぎ等について意見が述べられ、幸福度を評価する指標の必要性、幸福度・幸福量のとらえ方等について質疑が行われた後、幸福度の数値化・認識手法等について意見の交換を行った。

2月20日の調査会では、参考人から、地方自治体における改革の課題と人口減少が与える影響、時代の変化と財政の役割等について意見が述べられ、地方における産業育成、水平的再分配と税負担に対するスウェーデン国民の意識、地方自治体の行財政改革に求められるもの等について質疑が行われた後、地方自治体の財政破たんの影響と対応策等について意見の交換を行った。

2月27日の調査会では、参考人から、農山村のくらしを再生するための課題、由布院における地域活性化の試み等について意見が述べられ、地域づくりの支援策と持続策、中山間地域の農業再生策、グリーンツーリズムの在り方等について質疑が行われた。

4月9日の調査会では、参考人から、幸せと不幸せとの関係と視点、目的と目標の関係、時代が求める人間像等について意見が述べられ、親子の愛がはぐくまれる教育、昨今の若者の気質、学校教育・家庭教育の現状認識等について質疑が行われた。

4月16日の調査会では、参考人から、貧困の固定化と人が社会的に排除される構造、高齢者の定義を見直す意義、社会保障における負担と給付の現状等について意見が述べられ、貧困の定義と分析手法、福祉政策の在り方、地方レベルで見た社会保障の現状等について質疑が行われた。

4月23日の調査会では、参考人から、21世紀の福祉システムを考えるときの前提、少子高齢化時代の成熟化の条件と突破口、グロス・ナショナル・ハピネス（国民総幸福量）の重要性等について意見が述べられ、スウェーデンで高福祉政策を展開できる理由、グロス・ナショナル・ハピネスを高めるための方策等について質疑が行われた。

5月14日の調査会では、1年目の調査及び今後の調査会の活動等に関して委員間の意見交換を行い、幸福度を数値化することの意味、仮説検証型調査のテーマ、フィールドワークの重要性、議員間の意見交換の意義、国民の意識調査の必要性等について意見が述べられた。

6月4日、1年目の調査の概要を調査報告書（中間報告)として取りまとめ、議長に提出した。

（２）調査会経過

○平成20年２月13日（水）（第１回）

○国民生活・経済に関する調査のため必要に応じ参考人の出席を求めることを決定した。

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、国民の生活環境と意識について次の参考人から意見を聴き、両参考人に対し質疑を行った後、意見の交換を行った。

〔参考人〕

ＪＴ生命誌研究館館長　中村桂子君

東京学芸大学教育学部教授　山田昌弘君

〔質疑者〕

犬塚直史君（民主）、加納時男君（自民）、松あきら君（公明）、大門実紀史君（共産）、加賀谷健君（民主）、石井準一君（自民）、澤雄二君（公明）、増子輝彦君（民主）

○平成20年２月20日（水）（第２回）

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、国民生活と行財政の現状について次の参考人から意見を聴き、両参考人に対し質疑を行った後、意見の交換を行った。

〔参考人〕

木下敏之行政経営研究所代表　木下敏之君

東京大学大学院経済学研究科教授　神野直彦君

〔質疑者〕

増子輝彦君（民主）、愛知治郎君（自民）、松あきら君（公明）、大門実紀史君（共産）、小林正夫君（民主）、森まさこ君（自民）、大島九州男君（民主）

○平成20年２月27日（水）（第３回）

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、都市と地方のくらしの現状と課題について次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔参考人〕

明治大学農学部教授　小田切徳美君

地域生活圏研究所代表　中谷健太郎君

〔質疑者〕

中谷智司君（民主）、長谷川大紋君（自民）、松あきら君（公明）、大門実紀史君（共産）、舟山康江君（民主）、石井準一君（自民）、澤雄二君（公明）、犬塚直史君（民主）、佐藤信秋君（自民）、増子輝彦君（民主）、橋本聖子君（自民）、藤本祐司君（民主）

○平成20年４月９日（水）（第４回）

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、若者のくらしと教育について次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔参考人〕

童話作家

ミュージカル脚本家　山崎陽子君

ネッツトヨタ南国株式会社代表取締役会長　横田英毅君

〔質疑者〕

小林正夫君（民主）、山田俊男君（自民）、松あきら君（公明）、友近聡朗君（民主）、加納時男君（自民）

○平成20年４月16日（水）（第５回）

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、福祉とくらしについて次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔参考人〕

日本女子大学人間社会学部教授　岩田正美君

国立社会保障・人口問題研究所所長　京極髙宣君

〔質疑者〕

舟山康江君（民主）、愛知治郎君（自民）、松あきら君（公明）、大門実紀史君（共産）、中谷智司君（民主）、山田俊男君（自民）、白眞勲君（民主）

○平成20年４月23日（水）（第６回）

○「幸福度の高い社会の構築」のうち、ゆとりとくらしについて次の参考人から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔参考人〕

早稲田大学社会科学総合学術院教授　岡澤憲芙君

文化人類学者

明治学院大学国際学部教授

ナマケモノ倶楽部世話人　辻信一君

〔質疑者〕

小林正夫君（民主）、森まさこ君（自民）、松あきら君（公明）、亀井亜紀子君（民主）、山田俊男君（自民）、藤原良信君（民主）

○平成20年５月14日（水）（第７回）

○「幸福度の高い社会の構築」について意見の交換を行った。

○平成20年６月４日（水）（第８回）

○国民生活・経済に関する調査報告書（中間報告）を提出することを決定した。

○国民生活・経済に関する調査の中間報告を申し出ることを決定した。

○平成20年６月20日（金）（第９回）

○国民生活・経済に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。

（３）調査会報告要旨

国民生活・経済に関する調査報告（中間報告）

【要 旨】

本調査会は、国民生活・経済に関し、長期的かつ総合的な調査を行うため、第168回国会、平成19年10月５日に設置され、３年間にわたる調査を開始した。第168回国会においては、まず、調査項目の決定に先立ち、これまでの国民生活・経済に関する調査会及び経済・産業・雇用に関する調査会が行った提言等に対する政府の対応等について、フォローアップを行うこととし、内閣府など７府省から説明を聴取し、質疑を行った。調査項目については、「幸福度の高い社会の構築」と決定し、本調査項目について問題意識を共有し、共通理解を深めるため、理事から、選定の経緯、今後の調査の進め方等について説明を行い、委員間の意見交換を行った。第169回国会においては、「幸福度の高い社会の構築」についての調査を進めるに当たり、まず、国民生活の現状を全般的に把握するため、国民の生活環境と意識など六テーマについて、参考人からの意見聴取・質疑、委員間の意見交換、視察を行う等、鋭意調査を進めてきた。

今般、以上のような調査の概要を調査報告書（中間報告）として取りまとめ、６月４日、議長に提出した。

その主な内容は次のとおりである。

国民の生活環境と意識について、参考人から、命を基本に置く社会の構築、地球環境問題と人心の荒廃、戦後社会の幸福の物語とそのゆらぎ等について意見が述べられ、幸福度を評価する指標の必要性、幸福度・幸福量のとらえ方等について質疑が行われた後、幸福度の数値化・認識手法等について意見の交換を行った。

国民生活と行財政の現状について、参考人から、地方自治体における改革の課題と人口減少が与える影響、時代の変化と財政の役割等について意見が述べられ、地方における産業育成、水平的再分配と税負担に対するスウェーデン国民の意識、地方自治体の行財政改革に求められるもの等について質疑が行われた後、地方自治体の財政破たんの影響と対応策等について意見の交換を行った。

都市と地方のくらしの現状と課題について、参考人から、農山村のくらしを再生するための課題、由布院における地域活性化の試み等について意見が述べられ、地域づくりの支援策と持続策、中山間地域の農業再生策、グリーンツーリズムの在り方等について質疑が行われた。

若者のくらしと教育について、参考人から、幸せと不幸せとの関係と視点、目的と目標の関係、時代が求める人間像等について意見が述べられ、親子の愛がはぐくまれる教育、昨今の若者の気質、学校教育・家庭教育の現状認識等について質疑が行われた。

福祉とくらしについて、参考人から、貧困の固定化と人が社会的に排除される構造、高齢者の定

義を見直す意義、社会保障における負担と給付の現状等について意見が述べられ、貧困の定義と分析手法、福祉政策の在り方、地域レベルで見た社会保障の現状等について質疑が行われた。

ゆとりとくらしについて、参考人から、21世紀の福祉システムを考えるときの前提、少子高齢化時代の成熟化の条件と突破口、グロス・ナショナル・ハピネス（国民総幸福量）の重要性等について意見が述べられ、スウェーデンで高福祉政策を展開できる理由、グロス・ナショナル・ハピネスを高めるための方策等について質疑が行われた。

１年目の調査及び今後の調査会の活動等に関して委員間の意見交換を行い、幸福度を数値化することの意味、仮説検証型調査のテーマ、フィールドワークの重要性、議員間の意見交換の意義、国民の意識調査の必要性等について意見が述べられた。